

---

[成果情報名] 秋期ランナー採苗によるイチゴ「あまおう」の炭疽病無病親株の確保

[要約] イチゴあまおう苗を本圃定植し、ビニル被覆後から年内までに発生した秋期ランナーを採苗した苗からは、イチゴ炭疽病菌の潜在感染株由来の苗でも、炭疽病菌は検出されないので、親株用の無病苗として利用できる。本圃定植用あまおうの苗を低温暗黒処理することで年内のランナーの発生を促進することができる。

[キーワード] イチゴ、あまおう、イチゴ炭疽病、無病苗、低温暗黒処理

[担当部署] 病害虫部病害虫チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作目] イチゴ

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 技術改良

---

[背景・ねらい]

近年、イチゴ炭疽病が問題となっている中、現地では無病苗を確保するために本圃収穫用株から秋期に発生したランナーを採苗し、次作の親株用として利用している。しかし、秋期ランナー由来苗の炭疽病菌感染の実態は不明である。また、あまおうでは秋期ランナーの発生が少なく、秋期ランナー由来苗の確保が困難である。そこで、秋期ランナー由来苗の炭疽病感染状況を明らかにするとともに、低温暗黒処理による秋期ランナーの発生促進効果を確認し、炭疽病無病親株を安定的に確保する。

(要望機関：生産流通課、北九州普、飯塚普、朝倉普 (H18))

[成果の内容・特徴]

1. イチゴ炭疽病菌潜在感染苗を本圃定植しても、ハウスビニル被覆後から年末までに発生した秋期ランナーを採苗した苗からは炭疽病菌が検出されない(表1)。
2. あまおうでは、定植前の苗に15℃、2週間の低温暗黒処理を行うことにより年内のランナー発生を促進できる(表2)。
3. 以上から、定植用あまおう苗を15℃、2週間の低温暗黒処理を行い、秋期ランナーを採苗することでイチゴ炭疽病の無病親株の確保ができる。

[成果の活用面・留意点]

1. イチゴ炭疽病の無病親株の確保に活用する。
2. 福岡県庁ホームページの「福岡県病害虫・雑草防除の手引き(<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/tebiki/toppu.html>)」に掲載し、普及指導員、JA営農指導員や生産者の技術資料とする。
3. 秋期苗由来の親株であっても、イチゴ炭疽病の薬剤防除は定期的かつ輪番で実施すること。

[ 具体的データ ]

表 1 イチゴ炭疽病潜在感染株由来の秋期および春期苗の炭疽病菌感染率

	採苗数 (ポット数)	炭疽病感染率 (%)	
		検定 1 回目	検定 2 回目
平成19年度			
秋期ランナー採苗	21	0.0	0.0
春期ランナー採苗	40	—	15.0
-----			
平成20年度			
秋期ランナー採苗	60	0.0	0.0
春期ランナー採苗	97	—	11.3

- 注) 1. 平成19、20年度ともに、低温暗黒処理し、炭疽病菌を接種後、定植した親株の炭疽病菌感染率は100%であった。
2. 検定 1 回目 平成19年度：平成20年 1 月 25 日、平成20年度：平成21年 2 月 9 日  
 検定 2 回目 平成19年度：平成20年 6 月 24 日、平成20年度：平成21年 6 月 22 日
3. 秋期ランナー採苗時期：ビニル被覆後から年末まで（被覆前に発生したものは採苗しない）  
 春期ランナー採苗時期：翌年 4 月～5 月に発生したランナーを採苗

表 2 低温暗黒処理が秋期ランナーの発生促進に及ぼす効果

	本圃定植株数	採苗数
平成19年度		
低温暗黒処理あり	120	42
低温暗黒処理なし	80	1
-----		
平成20年度		
低温暗黒処理あり	180	76
低温暗黒処理なし	40	1

- 注) 1. 低温暗黒処理は、15℃、2 週間で実施した。
2. 定植日：平成19年度は10月 2 日、20年度は10月 3 日

[ その他 ]

研究課題名：適正な本圃採苗と薬剤防除を組み合わせたイチゴ炭疽病防除技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成20年度（平成19年～平成20年）

研究担当者：石井貴明